



相ノ木っ子だより



令和3年度
7月号
上市町立
相ノ木小学校

モヤモヤ、イライラをホンワカに



「校長先生、ツバメ巣作ってますね」

朝児童玄関で子供たちを出迎えていた先生が、うれしそうに話しかけてきました。例年より少し遅めの
ような気がします。6月に入って、職員室外の軒先にツバメが巣を作り始めました。毎日毎日つがい
が何往復もし、6月も半ばを過ぎると、安定性のあるりっぱな巣が完成しました。その様子を見ながら、先
生方も子供たちも新たな命の誕生を楽しみにしていました。ところがある日、わらのような長いものがた
くさんツバメの巣から垂れ下がっていました。何とスズメのつがい巣を横取りしたのです。そんな出来
事にはこれまで出合ったことがなかったので、とてもびっくりしてしまいました。

ツバメのつがいは、その巣をあきらめ、数メートル横の方に新たな巣を作り始めました。それからしば
らくして、新たな巣の完成が近づいた矢先、何とまたしても巣をスズメに横取りされてしまいました。せ
っせと作った巣に堂々と居座るスズメ、近くで困惑気味にじっと巣を見つめるツバメ。「なぜ抵抗しない
の？なぜされるままにおとなしく見ているの？」「どうして1つばかりか2つ目も？単なる嫌がらせ？」わ
たしは、ツバメのお人好しさに呆れ、いらいらし、スズメのずるさと横暴さに憤慨しました。

物事がうまくいかない時や心に余裕がない時、人はいらいらしてしまうことがあります。特に梅雨時に
は蒸し暑さも重なって、もやもやしたものを心の中に抱えやすいです。ましてや、コロナ禍によって気分
転換やストレス解消の方法も限られている今年の夏は、イライラがマックスになりがちです。そして、自
分の思いと反するものや相手に対してだったり、不甲斐ない自分自身に対してだったり、沸き起こった気
持ちはぶつけてしまいます。わたしも、気がかりなことがあったり、心が急いたりすると、心の中が重く
なり、ぶっきらぼうな対応、物言いになってしまうことがあります。後ですごく反省するのですが…。人
の心の作用として仕方ないことなのかもしれませんが、モヤモヤやイライラをぶつけることなく、自分で
コントロールしなければと常々思っています。

先月5・6年生が行った大辻山の沢登りは、なかなかの陰しさがあって、りっぱな登山でもありました。
急勾配が続く中、沢にバシャバシャ入ったり、ぬかるみで滑りそうになったりと、たいへんではありまし
たが楽しいものでした。しかし、なかなか山頂にたどり着かず、長時間の登山に疲れもピークになり、中
には多少いら立っている様子の子供もいました。それでも、何とか全員山頂に立てたのは、きっと友達と
のやり取りや励まし合いのおかげだったろうと思います。そういった心づかいを互いに感じることで、ホ
ンワカとした心持ちに変わり、最後までがんばって登り切ることができたのでしょう。学校だけに限らず、
いろいろな社会が人と人の関わり合いによって構成されています。人同士が触れ合うことで、モヤモヤや
イライラが増えるのかもしれませんが、互いの気づかいや声かけ、心持ちによって抑制できることも多い
気がします。そして、そういった経験を積み重ねていくことで、自分のイライラを少しはコントロールで
きるようになっていくのではないのでしょうか。

イタリアの社会学者フランチェスコ・アルベローニは次のように言っています。

忍耐はけっして生まれつきのものではなく

習得するものであり、

強い意志の力でもってつくりあげるものである。

2個目の巣を乗っ取られたツバメのつがいは、今度は児童玄関前に移動し、いろいろな箇所を試しつつ、
また新たな巣を完成させています。そのひたむきで、あきらめない姿を見習って、どんな状況に立たされ
ても、周囲の人の笑顔を想像しながらホンワカナ心持ちでいられる自分でありたいと思います。

自分たちのきまりを自分たちの手で

先日、運営委員会の皆さんから第 1 回代表委員会での決定事項の報告があり、それについての意見を求められました。実は、先月から 1 か月かけて学級や代表委員会でじっくり話し合ってきたものでした。その議題は、「相ノ木っ子の約束を見直そう」で、シャープペンシルの使用とフード付きの服の着用に関することです。本校では、字の上達や筆圧を考慮してできれば鉛筆を使用すること、安全面を考慮してできるだけフード付きの服を着てこない、着てきた場合はフードを中に入れるようにすることを原則としてきました。子供たちは、その約束について見直しを図り、みんなで話し合おうとしたわけです。

最近巷では、校則に関する議論が盛んに行われています。上記に関しては、校則とは言えないまでも、本校での原則としての約束事ではありました。そういった生活のきまりに関して自分たちで話し合い、決めていきたいという子供たちの思いや姿勢が、まずわたしはうれしかったです。そして、みんなで生活の仕方やきまりの理由付けについて真剣に考え、きちんと話し合ったことならば、その決定事項に沿いたいという思いをもっていました。

そして、数度にわたって開催された代表委員会で決まったことは、次の通りです。「シャープペンシルは、4 年生以上は使ってよいこととする。ただし、安全な使い方や学習の邪魔になる使い方をしたら、全学年使用禁止とする」「フード付きの服を着てくることは禁止とする」わたしは、予想外の決定にとっても驚きました。安全に留意しながらもっと自由度の高い決定になるのだらうと思っていました。子供たちの安心・安全な生活への強い思いに感心するとともに、使用禁止という文言やかえって厳しいきまりになっていくことにやや不安を感じました。

そこでわたしは、まず長期にわたっての話し合いに感謝の意を表し、代表委員会の決定事項を尊重することを伝え、運営委員にいくつか提案をしました。「シャープペンシルの危ない使い方があったら、使用禁止ではなく再度代表委員会で話し合うようにしたらどうか」「フード付きの服は多く、使用禁止は困る家庭もあるから、やはり原則として着てこないようにするというのでどうか」「みんなで話し合ってフード付きの服の危なさを考えたのだから、もし着てきても安全に十分注意するということができるのではないか」こういったわたしの意見を運営委員も納得してくれ、新たな相ノ木っ子の約束が決定されました。

改革は内部からなるもので、外部からもたらされるものではない。

法で美德を制することはできない。

これは、イギリスの歴史家エドワード・ギボンの言葉です。改革や変革を起こすためには、内なるものが変わらないといけないと言っています。ルールやきまりはとても大切なものです。それらがあことで、みんなの安心・安全が守られています。しかし、それに何の疑問も呈しない、ただ単にきまりに縛られているだけでは何の意味もありません。自分たちできまりをつくる、自分たちできまりをよくする、そんな思いできまりと向き合うことが重要だと考えます。ルールやきまりがなぜ必要なのか、それによってどうわたしたちの生活が向上していくのか、そういったことをきちんと考え、見直しのできる相ノ木っ子であったことが、今回何より素晴らしく、うれしいと感じられました。

行事予定（7月中旬～9月中旬）

7月20日（火） 地区児童会
こども 110 番の家訪問
21日（水） 第1学期終業式
22日（木） 海の日
23日（金） スポーツの日
26日（月） 夏季休業（～8/31(火)）



7月30日（金） 立山登山（6年）
8月 8日（日） 山の日
9日（月） 振替休日
9月 1日（水） 第2学期始業式
14日（火） 秋季大運動会(雨天順延)

